

第35回全日本少年サッカー大会

結果報告

兵庫フットボールクラブ
代表 永浜 和紀

大会前の強化練習・試合スケジュール

- 7月23日(土) 広島ナビック ローザス
- 7月24日(日) 奈良 ディアブロッサ高田FC
- 7月25日(月) 播磨光都 龍野JSC交流試合
- 7月26日(火) 播磨光都 練習
- 7月27日(水) 淡路五色 五色FC・奈良YMCA交流試合
- 7月28日(木) 奈良 五条FC交流試合
- 7月29日(金) 播磨光都 練習
- 7月30日(土)～8月1日(月) この3日間は、ボールを一切さわらず、疲労回復に努める。

この準備期間が最高に子どもたちを変えた。厳しい1週間だったが、とことん追い込み、厳しい練習の日々が続いたが、誰ひとりくじけることなく、やり遂げた。こんな選手たちだからこそ、指導者は、みんな試合に使いたいという気持ちになる。どれだけ伸びたのか、試合で見たいという気持ちになる。

7月31日(日) 加古川を出発。午後3時、試合会場・開会式場を視察。

第35回全日本少年サッカー大会

日本サッカー協会より特別賞を受賞

8月1日(月) 午後3時より **開会式**

静岡県御殿場市 時の栖 人工芝G
晴天の下、全国予選を勝ち抜いた48チームが整列。
各チームのユニホームがとてもたくましく感じた。
たくましく日焼けした顔が印象に残る。

試合前夜のミーティング

- やるべき準備はすべてやってきた。自信を持って試合にのぞむこと。
- 1次リーグを首位でぬければ、2次リーグで川崎フロンターレとあたる。
7月23日からやってきた1週間の練習はすべてその試合のためであることを説明。
その試合に最高の状態でのぞむために、それまでは全員の選手で戦う。
- 全選手を使うことで疲れのない最高の状態で、川崎戦を迎えられる。
みんなの力を結集させれば、不可能を可能にできる。

このことが、サッカー協会から特別賞をもらうことになるとは、思ってもいなかった。

すべての選手を試合に使い、一生に一度の経験の場を提供することが、ひとりひとりの選手二都って最大の財産になるだろうと考えていた。全選手を使い勝利を目指す。「それができなければ、フロンターレと試合をする資格もない。」選手も納得してくれた。

8月2日(火) 1次リーグ

兵庫FC 3 - 0 高知南FC (高知県代表)

四国ナンバーワン、チビリンピックベスト4の実績。不思議と落ち着いて采配をふるうことができた。ベンチの選手の声がとても優しく、選手との一体感を感じながら試合。前半のこり数分の時間帯で、田中聖也のミドルシュートが決まり先制。GK以外の選手を総替え。後半の選手は、疲れのない、元気いっぱいプレーを展開。着実に追加点を決めて勝利。この試合の結果が、選手にとっては大きな自信となった。

兵庫FC 2 - 1 出雲東FC (島根県代表)

開始3分に失点。最悪のスタート。しかし、選手はあわてなかった。13分に田中進が、15分に田中聖が勝ち越し点。試合内容は良くなかった。その原因も理解してくれた。明日に向かって、成長した姿を見せてほしい。

8月3日(水) 1次リーグ

兵庫FC 6 - 0 FC城西 (岐阜県代表)

昨日の反省を生かす選手。みんながよい顔で戦っている。垣内のヘディングシュートは、田中進・田中聖とつながってのもの。素晴らしい連携からの1点は選手の気持ちを高め、後半の得点ラッシュへと続く。

8月4日(木) 2次リーグ

兵庫FC 5 - 0 野洲JFC (滋賀県代表)

同じ関西であるが、試合をしたことも見たこともない。昨日、フロンターレとの試合を見た。0 - 6の完敗。選手はショックを受けていた。フロンターレのレベルの高さに驚いていた。明日は我が身と思いながら、スカウティング。野洲JFCのほとんどの情報をキャッチしていたので、戦いやすかった。

選手が試合開始から、アクセル全開。3分4分と連続ゴールで勝負を決めてしまった。次の試合があるので、もっと力を残してほしかったが・・・。

兵庫FC 0 - 3 川崎フロンターレ (神奈川県代表)

一昨年、第33回全日本少年サッカー大会、準々決勝で1 - 2で敗れている相手。野洲との試合をじっくりスカウティングされ、高いモチベーションで試合に入られては、勝ち目はない。もう少しなめてかかってきてくれれば何とかなる可能性もあるが・・・。

開始1分の先制点がすべて。これで兵庫としての作戦はすべて狂った。やはり、関東のJ下部チームは強い。素晴らしい選手、そして素晴らしい指導力を持つ監督。私自身の努力不足での敗戦を感じる。

もっともっと勉強したいのだが、関西では情報不足。

5日(金)選手を残して、加古川へ帰省。6日からの四国遠征に備え一足お先に失礼した。バスの中で、柏レイソルが、川崎フロンターレに勝ったことを聞き、関東のレベルの高さを痛感。

翌日、兵庫FCが、日本サッカー協会技術部から特別表彰を受けたとの報告。嬉しい限りである。最後まで、指導者を信じてついてきてくれた選手にこの賞を贈りたい。

川崎フロンターレとの試合の3時間前、保護者の皆様から子どもたちへ手紙をいただいていた。試合前にモチベーションをあげようと思っていたが、真逆の結果。ご両親の手紙を読む子どもたちは、号泣。勿論スタッフも・・・。手紙を渡すタイミングが悪かったのかもしれない。目を腫らした子どもたちの顔は、戦う戦士ではなくなっていた。これも指導者としての経験。次の機会に生かします。

素晴らしい手紙でした。ご両親の心の内を聞いて、「選手全員を試合に出す。」そう決心したことに悔いはないと思いました。ひとりひとりの夢を大事にすることの大切さが、身にしみてわかりました。

長い間支えてくれた保護者の皆様に感謝します。 ありがとうございます。